

地域に開く心理劇活動 (1)

— よりよい人間関係を求めて —

佐藤啓子・小原伸子・青木玲子・杉本太平・大輪幸路

Psychodramatic Activities Founded on Community

— to better human relationships —

Hiroko Sato, Nobuko Obara, Reiko Aoki,
Taihei Sugimoto, Koji Owa

This is the report of practical research of Psychodrama mainly focussing on the human relationships.

We have long wanted to make the systimatic activities in community in order to realize to better human relationships. For we think it good and useful that the research in the university is applied to community or society. And at the same time, researchers themselves should learn from people in community or society.

Then we held the first session of Psychodrama as the activities in community on 18th May, 1991, in Bunkyo University. Since then we have been holding these activities fifteen times.

This is the report about the Psychodrama which was held on 27th and 28th March, 1992 in "Saitama Prefecture Synthetic Activity Center".

Especially, in this study we have made the follwing points clear:

- (1) What kinds of educational program were possible to better human relationships?
We made such a tentative plan and practiced it.
- (2) We used several techniques to make possible the process of our activities and to consider the effevts in some aspects.
- (3) We made clear what the participants learned from the descriptions of their impressions about Psychodramatic activities.

はじめに

人はその生涯において、他の人と交わらずに生活し続けることは不可能である。その出

生自体が他の人によって媒介されており、その生きるプロセスにおいても、多かれ少なかれ他人の援助があってこそ生き続けられるし、より豊かな人生を歩めるのである。本研究は、

この人と人との交わりに焦点を当て、その交わり方、間の性質、基盤的状况がどうあることがより豊かな人間生活へ連なるかを明らかにしようとする実践研究報告である。

1. 研究活動の経緯と本研究の目的および概要

(1) 研究活動の経緯

- ① 筆者(佐藤)は、本学就任以来、内外における諸領域において、それまでに学んだ関係学(1)(創始者:松村康平)を基礎理論とする諸活動を続けている。その主な研究や活動の成果は、本学助手小原伸子の協力を得て、紀要『人間科学研究』に、「人間科学における関係弁証法の展開」と題して報告している(2)。
- ② その間、本学人間科学部の前身としての家政学部における児童学科時代以来、様々な学生たちとの卒業論文作成過程においても、関係学をベースとする研究が続けられている。それらの中には、心理劇に関心をもつ学生たちもいて、研究は、年々の積み上げの中で、発展的に継続している。この間に、学生や研究生として在籍し、今日なお筆者とかかわり研究を継続しているのが、青木(当時研究生)、杉本(当時研究生)、大輪(当時学生)である。
- ③ 杉本、大輪は、心理劇に強い関心を示し、日本心理劇協会(会長:松村康平)や、お茶の水女子大学心理劇研究会(黒田淑子ほか)等の外部の心理劇研究活動にも参加し、次第にその活動を他の学生も経験し、学習して欲しいとの意欲をもつに至った。そこで、筆者との相談が始まり、結果として、1990年10月11日に、「文教大学心理劇研究会」として、その第1回が開催され、翌年2月21日まで、計8回の活動が行われている。この間の経過・成果については、杉本・大輪により、『関係学研究』第19巻第1号(1991年)において報告されている(3)。
- ④ 折しも、文教大学における活動とは別に、埼玉県県民活動総合センター(埼玉県伊奈

町)からの依頼により、カウンセリング講座「人間関係を高めよう」が通算5回(1990年1月25日・30日、2月9日・16日・22日)にわたり開催され、佐藤の監督、小原・青木・杉本・大輪の補助自我チームによって、活動が展開された。この活動の終了後、多くの参加者から、ここでの体験、学習をさらに深め、発展させたいとの要望が出された。その結果、文教大学心理劇研究会と埼玉県県民活動総合センターでの活動の発展的統合がなされ、1991年には、埼玉県という広がりの中で研究会が位置づき始めている。なお、総合センターにおける5回活動は、日本においては、佐藤・小原・青木により、「かかわり方の発展にかんする研究(20)(21)(22)」と題して、第58回日本応用心理学会において、海外では、カナダのモントリオールで開催された第11回国際集団精神療法学会において、“Psychodrama for Adults”(5)と題して報告されている。

- ⑤ この統合的活動は、第1回(総じて9回目)が1991年5月18日に、文教大学を会場として開催され、文教大学学生たちと、越谷市周辺に住む人々および埼玉県県民活動総合センターでの参加者との間で開かれており、1992年9月26日現在、第23回を迎えるに至っている。なお、この間の経過・成果については、杉本・大輪により、第14回関係学会において、「大学における心理劇の自主的活動(2)」(6)として、研究発表がなされている。

(2) 本実践研究活動の概要

本報告は、以上の活動経過の中から、1992年3月27日・28日の2日間にわたり、埼玉県県民活動総合センターにおいて行われた宿泊研修会のものであり、その概要は、表1(P.66~P.67)の通りである。(表の作成:佐藤)

(3) 本研究の目的

以上の経過を踏まえつつ、特に本研究では、以下の視点を明らかにすることを目的とする。

- ① よりよい人間関係を実践するためには、どのような教育プログラム(場面設定etc)

を組むことが可能であるか、将来の体系化をめざしながら、試案を作成し、実施する。

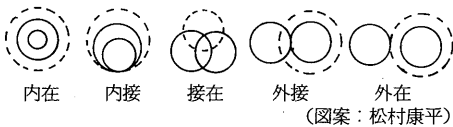
- ② その目的に有効と思われる緒技法をピックアップし、その意義について検討する。
- ③ 実施された教育プログラムへの参加者は、どのような体験をし、そこから何を学習したのかを、参加者の体験叙述（感想文）から明らかにする。（文責 佐藤）

2. 活動の経過と展開

表1 (P.66) によって示された第1・第2・第3セッションの経過および活動内容をさらに具体例を示しながら明らかにし、以下の分析基準によって、分析・考察する。

(1) 分析基準

- ① 5つのかわり方
内在・内接・接在・外接・外在

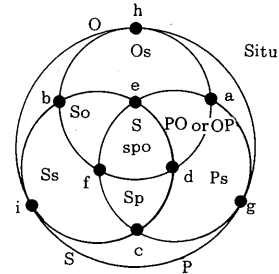


② 自己構造図

Ss (自己的自己) Os (物的自己)

Ps (人的自己) So (自己的物)
Sp (自己的人)
POorOP (人的物および物的人)
Sspo (統合的自己)

③ 起動点 a~i



S：自己 O：物 P：人 Situ：状況

(2) 活動の経過と展開

- ① 第1セッションの経過および分析と考察：表2
- ② 第2セッションの経過および分析と考察：表3
- ③ 第3セッションの経過および分析と考察：表4

表1 文教大学心理劇研究会宿泊研修会プログラム 1992年3月27日・28日

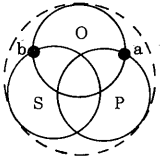
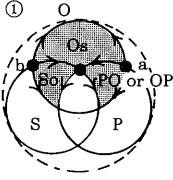
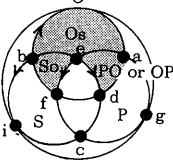
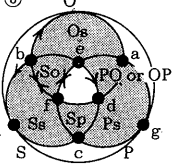
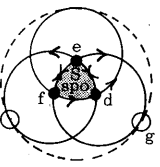
日	セッション	時	目 標	展 開 (技 法)	サブリーダー	備 考
3月27日 (金)	第1セッション	13時30分～17時	<p><関係体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイコドラマティストとしての資質養成として演技性を身につける。 ・役割取得、演技、創技のうち、特に演技性の養成をめざす。 ・豊かな表現、身振り仕草を表演する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物語の一場面を演じる。 用意された物語の「ヴェニスの人」の場面（別付）を、2グループそれぞれに演じる。 2. 各グループ別に、それぞれ、演じたい物語を工夫して演じる。 (劇場心理劇の技法) 3. 感想を出し合う。 	青木	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の選定：筋、場面の性格が明確に出ているもの ・第1グループ：こぶとりじいさん ・第2グループ：ウィリアム・テル

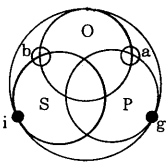
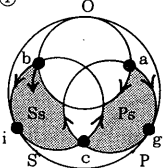
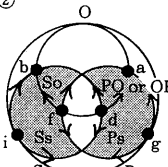
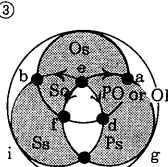
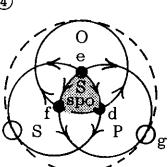
日	セッション	時	目 標	展 開 (技 法)	サブリーダー	備 考
3月27日(金)	第2セッション	19時～21時30分	<p><関係認識></p> <ul style="list-style-type: none"> • どのような認識の仕方をするのが自己関係、人関係、物関係を発展させることになるのか。 • 自己一人一物の接在共存の認識 • 認識のパターンとしての <ol style="list-style-type: none"> ① 1者関係的 ② 2者関係的 ③ 3者関係的 ④ 多者関係的 認識のパターンを知る。 	<p>(ニュース場面の技法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ニュース場面の設定 <ol style="list-style-type: none"> 2. ニュースその(1): 杉本 関係学会発表論文の報告。 3. バズ: ニュース(1)を聞いて、3つのグループ別のバズと報告。 4. ニュースその(2): 参加者から一人一人ニュースを語る。 5. 解説者からの解説: 青木 <p>(付) - 明日に向けて - 自己の課題を配布された用紙に記入する。</p>	杉本	<p>(リーダーチームの役割) プロデューサー: 佐藤 製作者: 杉本 司会: 小原 解説者: 青木</p> <p>• 明日に向けての課題は、それぞれが自分の解決したい課題を配布された用紙に記入して、保存し、明日に備える。</p>
3月28日(土)	第3セッション	9時～11時30分	<p><関係洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> • 関係への発展的なかわり方をするためには、どのような洞察に基づいているかが重要 - その洞察の仕方を学ぶ - • 問題解決の心理劇 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前日配布された用紙に記入されている各自の課題を読み上げ、似ている人同士で近寄り、グループを作る (全体で2つ)。 2. 各グループ毎に、一つの場面を設定し、演じる。 3. 1グループが演じ、途中でストップをかけ、それぞれがこの先を予測してノートに書く。 4. 演者グループは、続きを演じる。 5. 観客グループは、何を書いたかを言う。 6. 感想を述べ合う。 	小原	<p>• 関係のどこを焦点化し、予測をたてていくか、 - 自己・人・物関係の視点を明確にする。 -</p>

※総監督: 佐藤, 各セッション担当・サブリーダー: 小原・青木・杉本

(文責 佐藤)

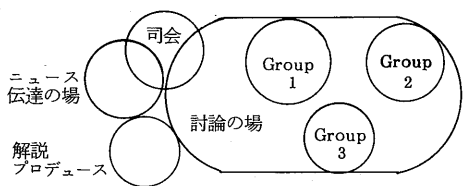
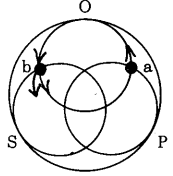
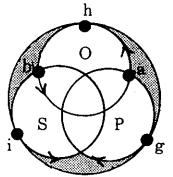
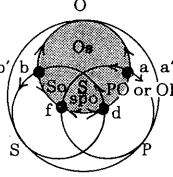
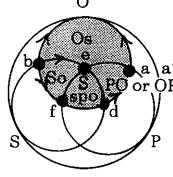
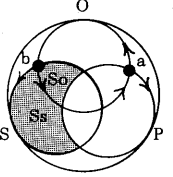
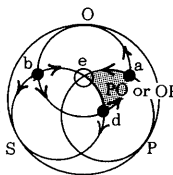
表2 第1セッションの経過および分析と考察

経過	G1活動内容・感想(※)	分析
<p>1. 監督が、セッションのねらいについて説明する。</p> <p>2. 「ヴェニス商人」のあらすじの説明</p> <p>3. 2つのグループ(G1, G2)を作る。配役を決める。</p> <p>4. 2つのグループが演じる。観客として見る。</p> <p>5. 演者として、観客として、感想を述べる。</p> <p>6. 監督が活動について感想を述べる。</p>	<p>1. セッションのねらいを知る。</p> <p>2. あらすじを知る。</p> <p>3. 配役を決める。あらすじを知っている人が多く、自分の役割を選択する。</p> <p>4. ① あらすじに即して演じる。</p> <p>② 個々が役割を迫力を持って演じる。人の演技に触発されながら、補助自我的に役割を演じる。</p> <p>※迫力があつた。よく言葉が出ていて演じているうちに、回りの人達につられて、動いてしまう自分を感じた。</p> <p>③ 演じながら感情の高まりを感じる。</p> <p>※演じながらそれぞれの人の人間味を感じていた。</p> <p>④ 言葉や身振りなどで、新しい状況を創る。</p>	<p>S: 自己(参加者) P: 参加者</p> <p>3. </p> <p>4. ① </p> <p>4. ② </p> <p>4. ③ </p>
<p>7. 各グループが演じたい物語を相談する。</p> <p>8. 練習・打ち合わせ</p> <p>9. 発表 G1: ウィリアム・テル G2: こぶとりじいさん</p> <p>10. 2つの発表について話しあう。</p>	<p>7. 「ウィリアム・テル」に決める。</p> <p>8. 練習</p> <p>9. ① 「ウィリアム・テル」のそれぞれの役割の特性がはっきりと表演される。</p> <p>※演じながら代官がにくらしくなると言う体験をする。</p> <p>② 場面構成・状況構成を次々と変化させる。</p> <p>※ストーリーと場面の創り方が面白かった。状況を物語を演じながら新しくして行くことが楽しかった。</p> <p>③ ウィリアム・テルの矢を人が動いて表演する。</p>	<p>4. ④ </p> <p>役割を選択することによって起動点 a, b を成立させる。a, b の内接・外接運動は、物(役割)領域を顕在化させ、役割の特性をきわだたせている。共に演じることにより、自己領域の顕在化と、感情体験を充実させている。</p>

G2活動内容・感想(※)	分 析	考 察
<p>1. セッションのねらいを知る。</p> <p>2. あらすじを知る。</p> <p>3. 配役を決める。ナレーションを決めて場面を構成する。</p> <p>4. ① 演者があらすじを考えながら、演じる。</p> <p>② 自己の人間性を表現しながら、演じる。</p> <p>※自分のイメージとは違ひ、シャーロックの人間味が伝わってきた。</p> <p>③ 言葉は少ないが、言葉のトーンで、状況や気持ちがかかる。</p> <p>④ ナレーションと演者が即時的に交流しながら、状況を創る。</p> <p>※ナレーションをやりながら、状況や物語が進んでいく面白さがあった。</p>	<p>3. </p> <p>4. ① </p> <p>4. ② </p> <p>4. ③ </p>	<p>1. 心理劇における演技の可能性</p> <p>第1部では、物語を展開する過程において、2つのグループの、役割の取り方について、特色とその可能性が明らかとなった。</p> <p>(1) <u>役割を演じることの可能性</u></p> <p>G1-役割の特性を明らかに演じる。 (役割取技)</p> <p>G2-自分らしい役割を演じる。 (役割演技)</p> <p>それぞれの特色を生かしながら、</p> <p>第2部では、各グループが、今ここで新しく役割を演じる(役割創技)体験をした。役割を演じることにおける自己の可能性をかかわりの観点から、①自己内在的役割(自分らしい体験)②自己内接的役割(過去に体験した役割)③自己接在的役割(自分らしく、今ここで新しい役割)④自己外接的役割(体験したことのない役割)⑤自己外在的役割(物の役割、状況)5つの役割に整理することが出来る。日常生活においては、自己の人間性を大切にしつつ、役割の可能性を自己に分化、成立そして統合することが、豊かな関係の体験と感情体験を充実させることであると考察する。</p>
<p>7. 「こぶとりじいさん」に決める。</p> <p>8. 練習</p> <p>9. ① 部屋全体を舞台として、二つの場面を同時に進行させる。</p> <p>② 物語の中に踊りを入れる。</p> <p>※踊りが楽しそうだった。私も踊りたい。自分が楽しむことによって、演じることもできる。あっという間に終わった。</p> <p>③ 民話という雰囲気を出す。</p> <p>※皆が知っている昔話が血の通ったものとなることが、感じられた。民話らしい楽しい雰囲気ときびしさが、出ていた。</p>	<p>4. ④ </p> <p>自己の人間性を表現することによって、自己領域を顕在化させる。同時に状況化起動点 h, i を成立、運動を展開することによって、新しい場面を創りながら、物(役割)領域を顕在化させる。自己の役割を創造する。</p>	<p>(2) <u>人との関係、かかわりで変化する自己の可能性</u></p> <p>人の演技(身振り、言葉)によって触発されながら自己の演技が変化する。共に高まる感情体験をする。</p> <p>(3) <u>状況を共に創造する可能性</u></p> <p>新しい状況をふるまいながら、共に創り出すことができる。特に、物(ウイリアム・テルの矢)の創造には可能性がある。</p> <p>(4) <u>演者・観客・監督の同時体験の可能性</u></p> <p>(5) <u>集団における個の充実の可能性</u></p> <p>自分らしさを失わない演技によってどの様な役割を取っても個が尊重される。</p>

(文責 青木)

表3 第2セッションの経過および分析と考察

経過および活動内容	分析
<p>I. ニュース場面の設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 監督により、このセッションの課題として、関係認識という言葉が伝えられる。 2. 役割として、プロデューサー（佐藤）、ニュース解説者（青木）、司会者（小原）、最初のニュースの提供者（杉本）、ニュース討論者（他の参加者）が与えられる。 3. 場面状況として、ニュース発表場、解説者席、司会者席、討論者席（バス形式）が設定される。 	<p>I. S: 参加者, P: 監督, O: 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.  2.  <p>II. S: 討論者, P: A→他の討論者, O: 認識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2.  3. 
<p>II. ニュースその(1): 関係学会発表論文の報告（杉本）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ニュース提供者（A）が、始めのニュースとして、91年度「関係学研究」に発表した論文を紹介する。 2. ニュース討論者とそのニュースに対してバス形式で討論し、感想をまとめて代表者が発表する。 3. Aが討論者の発表に応じ、解説者（B）やプロデューサー（C）が全体をまとめつつ、感想を述べる。 	<p>III. S: 発表者, P: A→B→C, O: 感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.  2. 
<p>III. ニュースその(2): 参加者がニュースを語る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者が一人一人、ニュース発表場に出て自分のニュースを語る。 <ol style="list-style-type: none"> ① すがすがしい涙を流した卒業式（S） ② 北海道の旅行で感じたこと（Se） ③ 子供の皆勤賞・初恋の人に20年ぶりで会ったこと（Y） ④ 県民活動推進メンバーになったこと・二人の息子が大学に入ったこと（H） ⑤ 今年の目標「思ったらなるべく1回でも多く実行するー今井監督の映画をみたいー」（A） ⑥ お話し会と私（Sa） ⑦ 銀座のママさんが大学を出たという記事を見て思ったこと（I） ⑧ TVのCMを見て、学校5日制と教育についての不安ー私は学校で子供と何を考えていくのかー（Ya） ⑨ 迷子のシェットランド犬と飼い主と私（E） ⑩ 老母の付き添いで感じたこと（Hu） ⑪ 脳卒中で倒れ失語症にかかった人と看護婦としてかかわった体験（N） ⑫ 古いテープの歌に子育てを思う（K） ⑬ 入社して1年（O） 2. 個々人で感想をまとめる。 	

分 析	考 察
<p>I.</p> <p>1. 監督が課題を伝え(起動点 a の成立・課題外活動), 自己が課題を認識する(起動点 b を成立させつつ, 課題内在・内接運動を展開).</p> <p>2.3. 監督や進行のリーダーにより, 役割が付与され, (起動点 a→b の成立・課題内接運動) ニュース場面が明示され, (同時に起動点 h が成立し, i, g の成立を促しつつ), 舞台状況が作り出される.</p> <p>II.</p> <p>1.2. A がニュースを提供(起動点 a→b 外接運動・PO 領域の顕在化). S が取り入れ(b の成立) 討論者が意見を伝え(新たな起動点 a, b の成立内接運動, So 領域の顕在化, a→f, b→d より e の成立を誘う) 意見が整理され発表される過程で, 接在共存状況がもたらされる.</p> <p>3. 討論者の感想を A が取り入れ(起動点 d→a), それについて感想を返す(外接運動, So, PO 領域顕在化). また, P (B・C) の統合的な感想を通して(a→c, f, d の成立を促し, S spo 領域を形成), A や S の感想が広がる.</p> <p>III.</p> <p>1. ニュース発表者が自己のニュースを発表する。(起動点 b の成立・自己内接, 人外接運動が展開). 観客は, 発表者の意見を自己に取り入れる(起動点 a を成立させつつ, 内在・内接運動を展開, 結果として, Ss, So 領域が顕在化する状況をもたらす).</p> <p>2. P は S のニュースの感想をまとめる。(起動点 d を成立させつつ, 行為を通して, 課題内接運動を展開, 起動点 e の成立を誘いつつ, PO 領域が顕在化する状況をもたらす).</p>	<p>I.</p> <p>◎監督の課題提示(関係認識)やニュース場面の設定により, Os(課題と個々の役割)の領域が顕在化した。ここでの参加者は, 場面状況の中で, 主として観客の役割を担っている。同時に, ニュース提供者にとっては, 補助自我の役割を担う存在である。</p> <p>◎さらに, この課題の提示や, 心理劇状況への参加のあり方が, 参加者にとっては, ニュースをどのように聞いたらいのか, という認識の成立が課題となっている。</p> <p>II.</p> <p>◎A による学会発表のニュースは, 発表者 A を P, 言葉(情報)を O, 参加者を S とするならば, 参加者にとって言葉を媒介とした情報(O)の伝達としてとらえられる。ニュースを話し, 聞くという活動は, PO(A の発表・意見)の領域を顕在化させるものであるといえる。</p> <p>◎ここでの参加者(S)は, A のニュースを取り入れ(起動点 b を成立させ, 内在内接運動を展開)それに対する自己の認識(So 領域)を形成しつつある存在ととらえられる。その後のバズ討論は, 参加者にとって自己が形成した認識を人(他の参加者)に話すことで, So 領域がより明確になる活動である。</p> <p>◎次に, 他の参加者の感想(PO 領域)を同じように取り入れつつ, 全体の感想をまとめる人の存在によって, バズグループの認識が整理される活動が展開された。これは, 人を媒介とした意見の発展統合化(S spo 領域の顕在化)としてとらえられ, 結果において, 接在共存状況が成立しているものと考察される。</p> <p>◎さらに, 討論者の感想を A が取り入れ, 質問に応じ, 感想を述べる活動(So, PO 領域の顕在化)があった。</p> <p>◎そして, 次に, 今まで活動全体をとらえる役割を担っていた解説者や, プロデューサーが, A や討論者の認識(So, PO 領域)を統合するような感想を述べた。これは, 参加者にとって, 新たな気づきを得ることができる活動としてとらえられ, 個々の認識が広がり, 結果として, 課題(関係認識)が深まることになったと考察される。</p> <p>III.</p> <p>◎ここでの参加者は, 発表者として自己のニュースを伝える役割を担う主演者である。また, 参加者は人のニュースを共感的(内接的)あるいは, 認知的(外接的)に聞きうる観客の役割を担う存在でもある。</p> <p>◎個々のニュースを整理すると, (1)自己と自己との関係状況におけるもの(⑥⑩)(2)自己と他の人との関係状況におけるもの(①③④⑩)(3)自己と物との関係状況におけるもの(⑦⑧⑩)(4)自己と人と物との関係状況におけるもの(⑥⑨⑩)(5)自己と全体状況との関係状況におけるもの(②)に分類できる。</p> <p>◎また, 参加者の感想から, ここで得た知識を, 自己の日常生活へ活かしたいというものが, 多く認められた。このことは, 参加者が, このセッション全体を通して, 関係認識という課題に即して, それぞれに理解を深めつつ, 発展的に活動に参加していたことを表すものと考察される。</p>

(文責 杉本)

表 4 第 3 セッションの経過および分析と考察

経 過	活 動 内 容 ・ 感 想 (※)
<p>1. 丸く輪にイスを置いてすわる。 一人一人昨日宿題になった気になること、困っていること、自己の課題を語る。</p> <p>• どの人と自分が似ているかを考えながら聞く。</p> <p>2. 自分の課題に近い人とグループを組む。</p> <p>3. グループごとに、一人一人の課題を確認し、共通性をとらえ、どんな場面を設定するか、どんな役割にするかを、話し合う、その後、演じる。</p> <p>4. 1グループが演じ、もうひとつのグループは、観客として見る。 演じている途中で、監督がストップをかけ、演者も観客も、この先を予測して、ノートに、書く。</p> <p>5. 演者グループは、続きを演じる。</p> <p>6. 監督のストップで、心理劇が終わり、観客グループから演者グループへと、途中で書いたことと実際の演じたものを見ての感想を発表してもらう。</p> <p>7. 演者グループと観客グループが交替する。</p>	<p>1. それぞれの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 非常時の準備 • 住環境の問題 • 自信のつけた • 学校 5 日制の導入 • 自分のこと、子供のこと、親のこと • 子育て終了後の夫婦のあり方、生き方 • 日常生活のこと • 心理劇について • 家族の関係について • 町内会のこと • 仕事のこと、老いた母のこと <p>2. 2つのグループができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> a グループ：地域、住環境、自然、社会 b グループ：家族、夫との関係、老後の問題、学校制度、生き方 <p>3. 2グループに分かれ、まるくなり、イスに座りじっくり一人一人の課題をサブリーダーが、確認していく。どんな場面設定や役になるかは、みんなで話し合い、それぞれの役を決めて、演じる。</p> <p>4. 演じるグループ：b グループ 観客グループ：a グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 役の紹介 ② 家庭場面→学校場面 ③ ストップがかかり、観客も演者もこの先を予測してノートに書く。 <p>5. ④ 学校場面→家庭場面</p> <p>6. 観客グループの感想</p> <p>※劇全体が暗い、その子の開放的になる場所がない。先生の悩みが授業にも反映していくのでは。母親の意識を変えた方がいい。子供無気力、母はからまわり。</p> <p>演者グループの感想</p> <p>※先生の態度がいやでずっといやな気持ちでいた。学校にも家庭にもすくい道がみいだせない。友達同志のかかわりができそうだ。</p>

分 析	活 動 内 容 の 分 析 ・ 考 察
<div data-bbox="231 249 498 513" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="133 550 593 632">自己の課題を発表することは、起動点で説明すると起動点 b から d への成立、展開がみられる。話す内容により、移動の道筋が 4 通りみられる。</p> <ul data-bbox="157 637 539 687" style="list-style-type: none"> • 物内接運動 • 物外接運動 • 自己内接運動 • 自己外接運動 <div data-bbox="227 724 495 988" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="133 1012 593 1094">So (自己と課題), PO or OP (人と課題) 領域が顕在化し、相談活動により、起動点 d, e, f の成立と移動がみられ、S spo 領域の顕在化に向かっていく。</p> <div data-bbox="162 1112 556 1500" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="133 1524 593 1604">予測をたてるということは、起動点 a, b を成立させ、感想や意見を言い合うことにより起動点 d, e, f が成立し、新しい起動点 a', b' を成立させることである。</p>	<p data-bbox="618 243 1108 299">1. 自己の課題を集団に発表することにより、自己の課題がより自分のモノになる。</p> <p data-bbox="618 558 921 576">2. 分類の仕方のひとつの方法として</p> <ol data-bbox="618 595 995 761" style="list-style-type: none"> ① 自己自身のこと ② 自己と人（親・子・友人）とのかかわり ③ 自己と集団（学校・地域）とのかかわり ④ 自己と物（問題・課題）とのかかわり ⑤ 物自身（自然・社会）とること <p data-bbox="618 772 1094 827">があり、a グループは、③④⑤が含まれ、b グループは、①②③が含まれる。</p> <p data-bbox="618 920 1108 1038">3. 自己と課題、人と課題が集団の中で明確になり、自己と課題と人の課題との関係からどういう状況を用意したり、どんな役があるといいかが明確になり、演じるイメージができ、関係洞察を育てながら心理劇の導入となっている。</p> <p data-bbox="618 1160 1106 1215">4. 予測をたてる道筋のたて方（どこに視点をあてながら見るか）</p> <ol data-bbox="618 1234 1106 1463" style="list-style-type: none"> ① 人間関係に焦点をあてる（先生と生徒・嫁と姑） ② 配役の気持ち、感情に焦点をあてる ③ 全体状況の流れに焦点をあてる ④ 集団と集団の関係に焦点をあてる ⑤ 問題・課題に焦点をあてる ⑥ 状況におかれている自己の感情の流れに焦点をあてる ⑦ 自己のかかわりの可能性に焦点をあてる

(文責 小原)

2. よりよい人間関係を促すための心理劇の技法

(1) 劇場心理劇の技法

〔目的〕

①物語（小説）一場面を演ずることにより、演技性を身につける。②物語（小説）にでてる役を忠実に演じることにより、豊かな表情、身振り、仕草を工夫し、演じること自体を楽しむ。③役割演技・役割演技・役割創技のうち、特に役割演技の養成をめざす。

〔効果〕

①人の演技（身振り、言葉）に触発されながら、自己の演技が変化し、状況を共に創り出す体験を育てる。②役割に忠実に演じようとしてもその人の人間性が表れ、そのことが受け入れられながら、状況（場面）が展開していく体験が育つ。

〔留意点〕

①場面の明確な物語、特色のある（演じやすい）役柄の物語を選択する。②ほとんどの参加者が知っている物語を選択する。

〔状況演出〕

§1：物語に即して

①監督があらかじめ物語を用意し、あらすじを紙に書いて配る。②6～7人1組のグループを作り、役割を決める。できたら、2グループ以上を作る。③どういう場面にするか相談しあい、演者グループ、観客グループに分かれ、心理劇を行演する。④演者として、観客として感想を述べる。

§2：物語を選びながら

⑤各グループで話し合い、何の物語を演じるかを決める。⑥役割、場面、状況をグループ毎に相談しながら決める。⑦演者グループ、観客グループになり、心理劇を行演する。⑧感想を述べあう。

〔考察〕

物語の役割に即して演じることにより、自己の人間性が重なり、新しい役割の可能性が広がり、心理劇における演技性を育てている。

(2) ニュース場面の技法

〔目的〕

①どのような認識の仕方をするのが、自己関係、人間関係、物関係を発展させることになるのか。②認識のパターンとしての①者関係の②者関係的③者関係的④多者関係的認識のパターンを知る。③日常生活の中で情報をどう認識し、自己的物として構造化するかを学ぶ。

〔効果〕

①同じ場面でも、同一課題をこなすことにより、個性的な表現方法を知り、多様な表現内容、技術を学ぶ。その結果として関係状況を認識し、気づきやかかわり方の可能性が広がる。

〔状況演出〕

①プロデューサー、製作者、司会、解説者、発表者の役割を用意し、伝達の場において、発表者が次々に各自のニュースを伝える。他の人たちは、観客として討論の場に位置する。②最初にリーダーのひとりが、特別ニュースを発表し、発表終了後、バズを行う。③観客からひとりひとり、伝達の場に出て、それぞれのニュースを語る。④その後、解説者が解説を行い終わる。

〔考察〕

同じ場面でも同一課題のもとに、聞くこと、語ることを体験することにより、認識の多様性、パターン、表現法の可能性を学ぶことができる。

(3) 関係洞察の技法

〔目的〕

①関係への発展的なかわり方をするためには、どのような洞察に基づいているかが重要であり、その洞察の仕方を学ぶ。②自己の予測のたて方の視点を知り、さらに、新しい予測のたて方を知る。

〔効果〕

①予測のたて方には、いろいろの視点のあることに気づく。②他の予測の視点を学びつつ、その予測も受け止めながらふるまうことにより、新しい予測のたて方を身につけることができる。

〔留意点〕

①ひとりひとりの課題をじっくり聞き、互いの共通性を見付だし得るような話し合いの場がもたれるように、注意する。

〔状況演出〕

①ひとりひとりが全体集団の中で、気になること、困っていること等、自己の課題を語る。

②自分の課題と他の人の課題の共通性を考えながら聞く。

③近い課題の人同志グループをつくり、もう一度ひとりひとりの課題を確認しあい、どんな場面、役割を用意することが、それらの課題解決に連なりやすいかを話し合う。

④観客と演者のグループをつくり、演じている途中で監督がストップをかけ、それぞれがこの先の予測をノートに書く。

⑤続きを演じて、その後、予測との相違や感想をひとりひとり発表する。

⑥再び、その劇の先を演じる。

〔考察〕

予測をたてる場合の視点のあて方の多様性を学び、自己の洞察の仕方の可能性を広げることができる。
(文責 小原)

3. 参加者の体験学習から — 個々人の学び —

セッション終了後、参加者は、研修会に参加した体験の感想文を提出した。以下は、自由記述式で書かれた感想文の中から、自己・人・物及び心理劇体験、合宿体験から記述している文を一部抽出したものである。

(1) 参加者自身について感じたこと (自己領域)

- (「ベニスの商人」) 悪人でうまく演じられなくても何だか心地よい。それは何なのだろうか?。今までにない体験であった。
- 最初私には、出来ないと思ったが、先輩のリードのお陰で今まで少し壁があったのが、演技しているうちに壁が取れ、乗っている自分に気がついた。終わってみると楽しかったという思い。この事は何事も外から見ると批判するのではなく、やってみないとわ

からないという良い体験になった。

- 何がどうしてどの様になっていくかわからない世の中、決めつける事なく、しかし意見をもち真にマナビスト(学び人)として歩いていきたいと思う。

- もっと一人一人の心の奥にある「ひだ」を読み取れる人になりたいと思った。

- 第3セッションの関係洞察の学習で、自己・人・物との関係の中でどう動くのか、これが私にとって大きな課題となった。

(2) 他の参加者やリーダーについて気づいたこと (人的領域)

- 気がしれた。随分と親近感をそれぞれ持った。

- (三分間スピーチで) どの人もそれぞれに納得のいく生き方を求めていることが読み取れた。

- (課題解決の心理劇) 一人一人が課題を最初に出し合ったが、いかにそれぞれが生活の中で課題を抱えているか知ってびっくりしてしまった。

- 概念でとらわれないことが大切。こちらから相手を決めつけないことにより、自分が自由な心でいられるので、ショックは少なく済むと思うし、必ずしも皆が一つの答えでなくとも良く、いろいろな考え方があった方がむしろ自然。

(3) 課題や物について感じたこと (物的領域)

- 「言葉」はこと(言)がまず存在し、その事の端(葉)をとらえて表現する手段。

- (地域活動の心理劇) 集団は、個性と個性が結びついて自然に成り立っていくものではないかと思うので、地域活動を満足感のある状態にもっていこうとしても無理なのではないか。地域活動もやり方次第で盛り上がり、心一つになるはずであると言う概念のうえに活動内容の充実を求めようとしても無理なのではないだろうか。(実際どうなのかわからない)

- 「私はこう思う」という意見と概念の世界では接点がないように思う。

- (感想文を)書きながら、うまく伝わるの

だろうかという疑問が湧くが、それでも私はこれからも感じたことを言葉に託そうと思っている。本当の意味での「かかわり」が生まれてきそうな感じがするからである。

(4) 心理劇についての考えたこと

- （「ベニスの商人」で）新しい意味内容が盛り込まれ、まさに新解釈の「ベニスの商人」であった。これだけ幅広い層が集まると実に楽しい劇が生まれることを体験した。
- 三分間スピーチは様々なドラマがあり、しみじみとした感動があった。
- （ニュースの場面の心理劇）アナウンサーになったつもりで自分の身の周りにあったことを人前で人にわかってもらうことの難しさを改めて体験した。
- （課題解決の心理劇）もっと自分自身リラックスして演じなければいけないと思う。そして、今自分はここで、何をしようとしているか、意識しながら、一場面一場面を大切にしなければならぬと反省します。
- 同じストーリーでも、リーダーにより、又演じる人の持ち味により違った劇になることは、オーケストラによる演奏において、同じ符号、同じ音符が書いてあるにもかかわらず、指揮者により又、演奏者の違いによって生まれてくる。音楽聴衆には違って聞こえてくると、同じ事だと思いました。
- 心理劇とは大きくみると、人生そのものという感じがした。生まれることと死ぬことは同じ条件だけれど一人一人違った歩み方をしているドラマだ。

(5) 今回の合宿に関しての意見・感想

- 旅行にでもいくような感じでワクワクした。遊び気分が半分以上だったような気がする。
- 今まで、テレビドラマをみて、自分に置き換え判断し、反省したり、見習ったり、自分に取り入れたりしてはいましたが、心理劇というものを知り、今違った角度から見ている自分に気づき、「ちょっと広がりができたかな。」という思いでいる。絵画・音楽・演劇それぞれが点であったのが、面の世界でとらえられる気がした。

- この合宿を通じて振る舞うことの楽しさ、心理劇の奥行きの高さ、そして何より人と接する喜び、人間のおもしろさがわかった。
- 華やかな季節にふさわしい心理劇研修会であった。（文責 青木）

おわりに

筆者らは、大学における研究が、研究室や大学内のみに留まらず、地域に広められ、地域の人々と共に、地域に開く活動として実践されることを願い、本研究を広めてきた。

よりよい人間関係をテーマとし、様々な戸惑いを含みながらも、先人の研究・実践を参考にしつつ、その教育プログラムの試案を実施した。まだ試案の段階ではあるが、参加者たちからの前向きで建設的な感想に支えられ、今後ともより発展的に研究活動が続けるべく、一同張り切っている。

時間や原稿枚数制約の中で、まだ十分検討しきれていない部分のあることを認め、今後ともさらに研究し続け、よりよいプログラムの体系化をしていきたい。

文教大学心理劇研究会に、快く参加し続けてこられた皆様に深く感謝致します。

引用文献

- (1) 関係学研究編集委員会編『関係学研究』第1巻第1号～第19巻第1号、1983年～1991年
- (2) 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(1)～(7)」『人間科学研究』（文教大学人間科学部紀要）1979年～1985年
- (3) 杉本太平・大輪幸路「大学における心理劇の自主的活動」『関係学研究』第19巻第1号（関係学研究編集委員会）1991年
- (4) 佐藤啓子・小原伸子・青木玲子「かかわり方の発展にかんする研究(20)(21)(22)」第58回日本応用心理学会大会発表論文集、北星学園大学、1991年
- (5) Sato, Hiroko and Obara, Nobuko. Aoki, Reiko. "Psychodrama for Adults" Materials of 11th International Congress of Group Psychotherapy, 1992.

- (6) 杉本太平・大輪幸路「大学における心理劇の自主的活動(2)」『関係学研究』第20巻第1号に掲載予定、1993年3月

参 考 文 献

- (1) 松村康平「心理劇—対人関係の変革」誠信書房1961年
- (2) 松村康平編「平和のための心理劇」ソシオ・サイコ・ブックス刊1972年
- (3) 黒田淑子「心理劇の創造」学献社1989年
- (4) 黒田淑子「生きることと人間関係—心理劇の活用—」学献社1988年
- (5) H. Aブラットナー松村康平監訳「心理劇—アクティング—in」関係学研究所1987年
- (6) 松村康平・土屋明美編「心理劇・集団心理療法・ロールプレイング」日本心理劇協会・関係学研究所1989年
- (7) 増野肇編集・解説『現代のエスプリNo.198サイコドラマ』1984年
- (8) 増野肇「心理劇とその世界」金剛出版1977年
- (9) 増野肇「サイコドラマのすすめ方」金剛出版
- (10) 台利夫「ロールプレイング」日本文化科学社1986年
- (11) 松村康平・佐藤啓子・小原伸子「かかわり方の発展に関する研究(1)~(19)」日本応用心理学会第42回大会~第57回大会1976年~1990年
- (12) 松村康平・佐藤啓子・小原伸子「人間発達についての関係学的考察(I)~(XXIII)」日本保育学会第28回~第40回1976年~1986年
- (13) 佐藤啓子・小原伸子・青木玲子「人間科学における関係弁証法の展開(9)」『人間科学研究』(文教大学人間科学部紀要)1990年
- (14) 佐藤啓子・小原伸子・青木玲子「母と子のための心理劇(I)~(IV)」日本保育学会第41回~第42回1991年~1992年